



2022年  
7月号

発行所  
神戸教区事務所  
TEL 078(351)5469  
FAX 078(382)1095  
<https://www.nskk-kobe.org/>

発行責任者  
司祭 瀬山 会治

印刷所  
文明堂印刷所

『この家に平和があるように』と言いなさい。

主教 オーガスチン 小林 尚明



主教執務室にて

7月3日の主日の福音書は、ルカによる福音書10章1節から20節です。9章でイエス様は、「十二人を派遣」します。その後、ご自身もエルサレムへの十字架の道歩き始められます。そして、10章

に入り、今度は「その後、主はほかに七十二人を任命し、御自分が行くつもりの方々に遣わす」と言います。この七十二人の派遣という出来事は、マタイやマルコ、ヨハネには無

い記事で、ルカにだけあります。どうしてかと考えましたが、やはりこの宣教に遣わされる、ということが教会全体の大切な働きなのだ、ということを示しているように感じます。

そして、イエス様は、「行きなさい。私はあなたがたを遣わす」と言われた後で、「どこかの家に入ったら、まず、『この家に平和があるように』と言いなさい。平和の子がそこにいるなら、あなたがたの願う平和はその人にとどまる。もし、いなければ、その平和はあなたがたに戻ってくる」と教えられています。平和というのは、単に戦争がないということではなく、本来は「欠けたところがない」「満たされている」状態ですから、平和を祈ってあげるとは「神様の祝福、お恵みがあなたの

生活の隅々にまで、行きわたりますように」と祈ってあげることだと考えてもいいと思います。

ずいぶん前のことですが、古本純一郎主教様が説教の中で、こんなにいいお祈りはない、お祈りすれば相手が幸せになるし、その祝福を受けることができる人がそこにいない、自分が帰ってくるだけ、自分が祝福されるのだから、とお話しくださったことがありました。

私が主教になる前、徳島で牧師をしていた時のお話です。聖書を勉強する家庭集会がありました。今日の箇所を学びました。その後で、ある信徒の方が「自分はいろんなお宅へお邪魔するけれども、『この家に平和があるように』とは祈らないけれども、そのお宅の人が『幸せになります

ように』といつも祈ってあげている」とお話を聞きました。そのお話を聞いて、皆さんが「だからいつも元気なんだ」と納得しました。平和ではなくて、幸せでもいいんです。その祈りを受け取れる人がそこにいれば、その人は幸せになれる。いなければその幸せは、自分に帰ってきて、自分が幸せになれる。祈ってあげるべきですね。祈ってあげる皆さんも祝福されます。

まだまだコロナの感染が心配される時です。しかし、三密を避け、訪問先の方の了解が取れば、お宅へ行って、玄関先でもいいではないですか、神様の平和を祈って差し上げたい。私がイエス様から遣わされて訪問するのであれば、後からイエス様もお宅を訪問してください。祝福してくださいと信じます。

主教巡回の時に、ご希望があれば、高齢信徒の方を訪問します。各牧師さんを通してお申し出ください。私が参ります、神様の平和をもって。

(神戸教区主教)